

## ワークショップ

### 日本とアジアのプロ向け債券市場の創設についての概説

犬飼重仁（早稲田大学）

東京証券取引所の東京プロボンドマーケット（TPBM）は、2007年第一次安倍内閣のアジア・ゲートウェイ構想に始まる政府の戦略およびそれ以降の政府の成長戦略に基づき制度創設された。その2010年の立ち上げに際し早稲田大学もこの新市場の枠組みの設計に貢献したが、2012年3月以降、TPBMは着実な発展を見せている。しかしそのTPBMもアジア域内のプロ向け債券市場の中核として重要な役割を担うことが政府関係者と一部市場関係者の中で期待されている割には、市場の専門家の間でさえ、まだよく知られているとは言えない状況にある。

ところで、2010年9月以来、（そのTPBMがその中核市場となることが期待される）ASEAN+3域内の共通プロ向け債券市場「AMBIF<sup>1</sup> Market」の創設に向けて、アセアン+3の枠組みで行われてきたABMF（アセアン+3・ボンドマーケット・フォーラム）の活動が大きく進展している。具体的には、アジア開発銀行（ADB）を中心に、特に我が国以下の域内各国財務省および中央銀行のイニシアティブにより、ABMI<sup>2</sup>の枠組みの中で域内各国官民による共同のグループ（ABMF）が2010年秋に立ち上がり、それ以降日本の官民関係者の事実上の主導の下、アセアン+3の官民関係者の尽力によって、アジア域内に共通のプロ向け債券市場「AMBIF Market」を創設するための壮大なプロジェクトが着実に進みつつある。

その第1フェーズ（2010年9月から2012年1月まで）の調査研究の成果として、域内11カ国地域の債券市場ガイドの作成を終えた。（2012年4月公表）

その成果をベースとして、2012年2月から各国債券市場のプロ市場部分/セグメントを結び付け域内共通債券発行プログラム/フレームワークと新たな共通プロ市場のルールとプラクティスを創り出すための第2フェーズが始まり一年半が経過した。

今回のワークショップは、日本とアジアのプロ向け債券市場創設構想の実現に向けて我が国官民のイニシアティブにより取り組みが行われつつある中で、まさに中核的かつ指導的役割を果たしてきた関係者各位を迎えて実施される。

すなわち、最新のTPBM及びABMFプロジェクトの具体的進展についての情報に加え、目指すべきAMBIF Marketについての今後の展望と日本とアジアの市場参加者にとっての意義・メリット、またTPBMと域内の各プロ市場をつないでいく際の具体的検討要件としての法的諸側面等まで含めて、討議を行う。

比較法大国である日本（および研究実施者としての早稲田大学をはじめとする研究所/研究者）がアジア全体にわたるこのような比較法学的な新研究分野でどのような貢献ができるか等も含めて、アジア大のスケールの新市場構想の全体像に迫りたい。

---

<sup>1</sup> ASEAN+3 Multi-Currency Bond Issuance Framework

<sup>2</sup> Asian Bond Markets Initiative